

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年11月20日				
ハッピーランド						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	着替え時にパーテーションが出来たので着替えスペースが確保できて良いと思う。 その日の利用定員に合った環境作りをしている 人数に適した部屋の広さだと感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	子どもの様子によるが、子ども達と密に関わることができる。 職員間で情報共有をし、一人ひとりに合った支援方法を考えられている 保育士が4人いる為、手厚く保育をすることが出来ている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	スケジュール等子どもと確認できる視覚支援があつて良いと思う。 視覚支援を取り入れ、子ども達が視覚的に見通しを持って過ごせるようにしている 部屋等も分かりやすく配置されていると思う。またトイレ等の設備も分かりやすく、覚えやすくなっている。またバリアフリーであるとも感じる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	日々の清掃は力を入れて取り組んでいる。 ロッカー回りの整理整頓をもう少し行っていきたい。 毎日清掃を行っている為、清潔な環境で生活が出来ている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	子どもの状態によって部屋を分け、落ち着ける空間を作っている 活動で使用していない場合は、ホール等、使用することが出来ている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	クラスの話し合いを活発にしていきたい。 スケジュール表を作成し、1日の振り回りと次の日の活動の目標、内容等話し合いを行っている 毎日担任で話し合い、目標を立てて活動に取り組んでいる。また、その日に振り返りも行っている。 振り返りができるようになってきた	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	定期的に保護者に向けてのアンケート等を実施している。	業務改善できるように努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	会議や研修を通して出てきた課題点等は、職員間ですぐに情報共有をし、改善していけるよう話し合いの時間を設けられている クラス会議等で話し合いをする中で意見を出し合うことが出来ている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	回覧を通して全体への周知がされている 自分が第三者による外部評価を行っていることを把握出来てない。	第三者による外部評価を行っていることは、職員に周知する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	学びになるので、今後も積極的に参加したい 研修を行うだけでなく、振り返りシートや感想用紙を記入することでさらに理解を深め、自分の意見を出すことが出来る 興味のある研修のアンケートを取っていたり、勤務年数に合わせた研修を受けさせていた ただいている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	支援内容の見える化を行うことで、支援を必要とする子どもや家族が、事業所ごとの支援内容を比較し、適切なサービスを選択しやすくしている	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	面談や会議を行い様々な関係機関との情報収集がされた上で作成されている 1人1人の見の様子をクラス会議で話し合ったり、子どもたちの生活の様子を見発管に共有することが出来ている。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	職員間で情報共有をし、一人ひとりに合った支援方法を考えることが出来ている 子どもたちの生活の様子を書類や話し合いの中で児発管に共有することが出来ている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	支援に対してクラスでも話し合っている。 一人一人の計画を職員間で共有をし、支援に取り組む様になっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	部屋の掲示物などは、視覚支援の教材を使用して支援を行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	上記の全部の内容が支援計画に組み込まれていると感じる。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	具体的な動き、目的を明確にできるように話し合っている 活動内容を具体的に立案できるよう話し合いの時間を設けるようにしている 利用児の特性や活動が被らないように設定されている 毎日担任でプログラムを話し合い、活動に取り組んでいる。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	活動に対する目的に合わせて内容を考えている 同じ活動でも内容を変えたり、目標設定を利用している子どもに合わせて決めるようにしている 同じ活動でも同じプログラムにならない様、子どもたちの様子も踏まえて、プログラムを考えている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	就学に向けての学習を時間を決めて取り組んでいる 状況に応じて支援を行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	考えていることに相違もあるので一致出来るように案を出し合っている。 活動前には担任間で、どの様に進めていくかを話し合い、行っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	活動の展開の仕方も話し合えるようになってきた 毎日担任で振り返りを行い、次の活動に生かしていける意見を出し合うことが出来ている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	デイリープログラムとして記録に残している。	振り返りで話したことも残していくようにする。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	担任1人だけでなく、何人かの意見を踏まえて見直しを行っている。		
	関係機関や	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
		26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	会議、訪問、電話等で互いの情報交換と共有がされている 定期的に併行先の保育園や幼稚園と電話等で情報交換を行っている。	
		27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0		
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	5	0			

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5	0	様々な価値観、考えに触れられるので今後も参考にしたい 必要や状況に応じて、外部研修を受けることが出来ている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	2		周知していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	0		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	関わる機会を見出していきたい。 交流保育を取り入れている 地域の保育園と交流する機会は持っていない 交流保育が行われている。	関わる機会を作るようにする。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	保護者と一対一でゆっくり話せる機会は少ないが、連絡帳や電話、メールなどを通して悩みなどを話し合える機会を設けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	定期的な会議が行われている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	1人で答えることが難しいこともあるので相談しながら支援を行うようにしている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	事業所では出来てない	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	ホームページで日常の保育の様子の写真を発信したり、定期的に活動の様子の写真を家庭に配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	焼き芋会などは地域の子どもたちも参加をすることが出来る。	
非常時等の	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	定期的に研修を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	定期的に研修を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	クラス会議で引き継ぎを行っている 担任間で共有をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	担任間で共有をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	散歩のルートは安全確保は、職員が実際に同じルートを散歩し、安全確認を行っている。	

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットの案件があった際には朝礼などで周知をし、情報を共有することができている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	外部講師の研修や職場内での研修も行われている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		